

2017 年度に明治大学附属中野高等学校を卒業した私たちの成人の日を祝い、このような集いの場を設けてくださったことを、御礼申し上げます。

中学、高校の 6 年間で明大中野を卒業し、早 2 年が経ちました。大学という広い世界で、新しい学びの友と学術書を紐解いたり、サークル活動を通して信頼できる仲間の大切さを学んだり、充実した毎日を送っています。しかし時折、明大中野での生活に思いを馳せることもありました。明治大学の付属校である明大中野では、約 8 割の生徒が明治大学へ進学します。そのため和泉キャンパスを歩いていると、ほぼ毎日と言っていいほど同級生に出会います。その度に、明大中野での生活が脳裏をよぎるのです。

そして成人の集いの日、本当に多くの同級生が母校に集まりました。もうすっかり懐かしさを覚える通学路を歩き、高校棟へと足を踏み入れます。食堂には、和泉キャンパスでよくすれ違う同級生はもちろん、生田キャンパスへと進学した同級生、他大学へと進学した同級生など、2 年ぶりの再会をようやく果たせた同級生もいました。彼らと再会して思ったことは、「こいつら、やっぱり明中生なんだな」ということ。着ているものは立派なスーツで、髪も伸びて茶髪になったり、ワックスで固まっていたり、外見は中学高校時代とはすっかり変わっていても、中身だけはあの頃から変わっていませんでした。懐かしい話で腹を抱えながら笑う姿、くだらない冗談の応酬…… いつまでも絶えない話し声に笑い声は、まさにあの日々そのものでした。終わり間際に、学年主任であった森川先生の提案で歌った中野学園校歌は、大切な思い出です。

この先、明大中野の同級生がこれほどの規模で集うことは難しいかもしれませんが、それでも、明大中野の卒業生であるということは、森川学年であることは、この先もずっと私たちの誇りであり続けます。

6 年間で男子校で、明大中野で過ごしたという誇りを身に纏い、私たち明中生は卒業後の道を歩いています。

林 翔也